

認知症の診断と治療に関する調査 まとまる

——気づいてから確定診断まで 15 ヶ月——

調査・研究専門委員会委員長 鈴木和代

「家族の会」と（株）日本イーライリリーとの共同で行なった「認知症の診断と治療に関するアンケート調査」の結果報告がまとまり、9月16日東京にて、概要をメディア向けに発表しました（発表内容は「家族の会」ホームページ）。これは昨年度の秋に実施した調査の結果です。ご協力いただいた皆様、ならびに配布に協力してくださった支部の世話人の皆様に感謝申し上げます。

本調査の目的は、認知症の人が変化に気づいてから確定診断を受けるまでの期間、その過程での経験の実態を把握し、より早期の診断に向けての課題を明らかにすることでした。介護中あるいは

介護経験のあるご家族465名が回答してくださり、充実したデータを収集することができました。結果、変化に気づいてから確定診断までの期間は平均15ヶ月でした。より早期の診断を実現するには、「受診するまで」と「受診してから原因疾患の確定診断を受けるまでの期間」の両方に対策が必要であり、支援制度の充実や早期対応が求められていることが分かりました。報告書が10月中には完成しますので、支部に配布致しますとともに、ホームページにも掲載をする予定ですので、結果の詳細はそちらをご覧ください。

世界アルツハイマーデーに寄せて、厚生労働大臣からメッセージが届きましたので紹介します。

2014年度「世界アルツハイマーデー」に寄せて

厚生労働大臣 塩崎恭久

2014年度「世界アルツハイマーデー」に当たり、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

国際アルツハイマー病協会が「世界アルツハイマーデー」を9月21日と定めてから本年で21年目を迎え、この間、世界各国で認知症に対する理解の向上を図る活動などが広がってきました。

日本においても、国際アルツハイマー病協会加盟の「公益社団法人認知症の人と家族の会」が中心となって、認知症の人のご家族の交流や相談、認知症介護に関する調査や研究などを進められ、国内外での啓発活動を展開されております。こうした関係者の皆様のご尽力に対し、深い敬意を表します。

今日、多くの国において社会の高齢化による様々な課題が生じつつある中、世界で最も高齢化が進んでいる日本の認知症に関する取組は世界各国から注目されています。本年11月には、認知症の新たなケアと予防モデルをテーマとした認知症サミット後継イベントを日本で開催しますが、このような機会を通じて、日本の取組を世界各国に発信していきます。

厚生労働省では、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会の実現を目指し、昨年度から「認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）」に基づいた取組を進めています。

具体的には、複数の専門職が認知症の人や家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置するなど早期支援の取組を実施するとともに、地域の実情に応じて、認知症の人とその家族、地域住民、専門職等の誰もが参加できる「認知症カフェ」の普及を図るなど、家族支援を図っていくこととしています。

今後とも、このような認知症施策を着実に推進するためには、「公益社団法人認知症の人と家族の会」をはじめとする関係団体と連携していくことが重要であると考えていますので、皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「公益社団法人認知症の人と家族の会」の皆様のますますのご発展を祈念しまして、私のお祝いの言葉といたします。



世界
アルツハイマー
月間

ライトアップや球場でアピール

京都・広島・鹿児島で記念事業

広島カープの応援歌に合わせてCCダンスを踊りながら啓発（マツダスタジアム）

9月21日には、京都と鹿児島でタワーなどのライトアップや啓発リーフレットの配布の啓発活動を行いました。京都では京都タワー、鹿児島では“アミュプラザ鹿児島”屋上の観覧車、“ドルフィンポート”内のなぎさタワー、ソラリア西鉄ホテル鹿児島の外壁の3カ所です。

一方、広島では9月9日に広島・中日戦が行われたマツダスタジアムで、球場キャラクターのスライリーやちびまる子ちゃんも参加してのリーフレットの配布、アストロビジョンでの啓発メッセージの表示やグラウンドで約2万6千人の観客

を前にアピールを行いました。

来年はさらに多くのところでライトアップなどの事業が行われるように、取り組んでいきます。



▲ライトアップされた鹿児島中央駅前の観覧車「アミュラン」

▲ライトアップした京都タワーとマスコットのたわわちゃん

京都・東京の講演会紹介

〉各支部でも記念講演会が開かれています

京都

「家族と本人の思い、病気への理解進む」

(285名参加)

あたたかい気持ちと、「家族の会」といっそうつながった感じになった講演会でした。

長野県から来られた、江森けさ子さんの語りで「認知症の人の心のうち」が始まりました。今村淑子さんがお年寄りの人形を使い、本人から見た周りの人を語り、認知症の人は困った人ではなく、どうしたらいいか困っている人であるが伝わりました。

夫が昨年8月に行方不明になり、今年3月に自宅近くで

遺体で発見された京都府支部の会員が、自費で尋ね人のポスターを作り、警察の力も借り、あらゆる方法で探していかれた状況を話してくださいました。そして「家族の会」のつとめで、一人ぼっちでないことを実感したこと、警察・行政・地域包括の連携があると捜索のポイントができ、命が助かると訴えられました。

中西亜紀先生の講演「認知症のタイプによる理解と対応」は、介護現場で対応が困難とされていた、前頭側頭型認知症の特徴を明快な口調でお話くださり、対応の仕方がよくわかりました。（京都府支部副代表 鎌田松代）

東京

「改正介護保険を介護者と考えよう」

(227名参加)

1部では、結城康博氏（淑徳大学総合福祉学部教授）が「改正介護保険」について講演。今回の改正では、要支援1・2が国の給付から自治体を実施する地域支援事業に3年間で移行し、サービスも一部セミプロや有償ボランティアに代わります。その背景に高齢者の増加と介護

人材不足があるが、同時に国の給付抑制の狙いもあると指摘。一方、認知症サロンなども地域支援事業の予算でできるなどのメリットも強調しました。併せて、介護人材確保のため世論喚起が必要だと訴えました。

また、2部では、東京都支部会員の石田貴代司さん、福山美和子さん（代読）が奥さんや父親の介護をめぐる現状や課題などを報告しました。

（東京都支部世話人 井田正夫）

写真で見る/ 世界アルツハイマーデー全国一斉街頭行動 170カ所で2500名が参加!!

9月21日を中心に、全47支部で約170カ所、約2,500名の世話人・会員が認知症への理解を訴えました。今年にはオレンジ色のTシャツに加え、世界アルツハイマーデーのタオルを肩にかけ、啓発リーフレットの配布を行いました。

各地で行政、製薬会社、学生、子どもなど様々な立場の方に協力いただき、中には県知事や、ゆるキャラなども応援に駆けつけてくれるところもあり、にぎやかな街頭行動となりました。



今年のリーフレット



つながれ！認知症理解の輪
●北海道支部
引き返してリーフレットを手にしてくださる方もいました



今年はテレビ取材もありました
●青森県支部
今年も県内5カ所で活動。テレビ、ラジオ、新聞で報道されました



宮古市の地域包括支援センターが協力
●岩手県支部
2時間で1000枚のリーフを完配し、達成感を味わいました



街頭で介護相談も
●宮城県支部
リーフを渡したところ、相談となり、しばし話し込みました



それな〜に？
●秋田県支部
リーフレットと一緒に渡した折り紙が子どもたちに好評



「きてけろくん」と一緒に街頭活動！
●山形県支部
「切実なんだなあ」と言いながら白髪の男性が受け取ってくれました



福島駅45名で啓発活動！
●福島県支部
県内10カ所で活動し、計116名の方が参加してくれました



「認知症」私の問題です
●茨城県支部
県内2カ所、96名が参加しました



“ニャオざね”も応援に
●埼玉県支部
「日本で二番目に暑い熊谷」に熱い思いの50名が集まりました



ご本人と話し込む世話人も
●千葉県支部
千葉駅前がオレンジに染まりました。「実は私…」とご本人から声がかかり立ち話



新宿駅西口で街頭活動
●東京都支部
賛助会員の若い人も加わり総勢32名で認知症問題をPRしました



外国の方も興味を持ってくれました
●神奈川県支部
英語のリーフレットがあったら…と言われ、次の課題も見えました



澄み切った秋空の下、汗ばみながらの大奮闘
●山梨県支部
高齢者の祭典会場に、オレンジ色が一際映え、相談者もいっなくなりました



長野市長やゆるキャラも参加
●長野県支部
“ぶっころ”もオレンジリングを付けて参加してくれました



笑顔で理解呼びかけ
●新潟県支部
ベンチに座ってじっくりリーフを見ている方の姿がありました



もう読まれたけえー
●富山県支部
列車が到着するたびに「読んでくださはれ…」と方言で呼びかけました



金沢駅広場に集う会員
●石川県支部
県内3大学の介護・福祉学部学生も参加し、活動しました



お嬢ちゃんも読んでください
●福井県支部
「認知症は他人事ではないです」こんな声が返ってくることもあり



オレンジ軍団出動!!
●静岡県支部
静岡駅では県の職員と一緒に、また富士市健康まつりでも配布しました



「家族の会」と心ひとつで!
●三重県支部
飛び入りの方も地域包括のみならず、「家族の会」のタスキをかけて



街をオレンジ色に染めて
●滋賀県支部
5カ所で過去最高の128名が参加。会員、メイト、行政、企業の熱意です



「自分は大丈夫かな?」と認知症チェック
●京都府支部
今年は男性でも躊躇なくチェックに参加される方が多く大盛況でした



後期高齢者の世話人も参加
●大阪府支部
いくつになっても啓発活動を。今年も健在です!



いざ! 認知症を正しく布教せん!
●奈良県支部
観光客でにぎわう近鉄奈良駅・行基像を中心に、子どもも大人も陽気にオレンジの汗を流しました!!



子どもさん、手渡した後にあいさつ
●岡山県支部
学生さん、製薬会社の社員さんなど、総勢34名が参加しました



「マツダスタジアム」以外でも!
●広島県支部
東部ブロック、北部ブロックで合わせて72名で街頭啓発活動をしました



認知症啓発、県知事が先頭に!
●徳島県支部
今年は飯泉嘉門県知事はじめ、総勢32名で街頭活動を行いました



介護家族の訴えを地域へ
●愛媛県支部
母の介護をしている現状を熱心に訴えました



声かけも上手で話し込んでいました
●高知県支部
県職員の参加もあり14人での活動でした



ん? 認知症だって!
●福岡県支部
「認知症」の言葉に素早く反応、受け取ってくれました



リーフレット配りを終えて
●佐賀県支部
新聞社やテレビの取材が4件あり、当日のテレビや翌日の新聞で紹介されました



認知症を理解し、笑顔で支えて!
●長崎県支部
3カ所で実施。2000枚をこえるリーフレットを配布しました



皆で声をかけて資料配布
●熊本県支部
会員さんもお子様と一緒に活動してくださいました



受け取り側の関心の高まりを感じます
●大分県支部
県内4カ所で配布し、総勢152名が参加しました



県のPRキャラクターと
●鹿児島県支部
「ぐりばー」もオレンジリングを付けて啓発活動!

会員さん からの お便り

平和に暮らすには…

神奈川県・Mさん 57歳 女

82歳の実母と同居して4年。平和に暮らすには、私の接し方ひとつなんだなと実感しています。

母との生活を2〜3ヵ月我慢しては何かのきっかけで怒りが爆発し、母の認知症が進行する。この繰り返しと、マンションでのフラットな部分でのプライバシーのない生活。主人の重いため息を聞くたび、私の後追いをする母との生活に少し疲れてきました。デイサービスもショートも嫌がり、ほとんど行ってくれません。

妻には心から感謝

大阪府・Oさん 68歳 男

夕食時、母は箸を置いたまま大きな声で延々としゃべり続ける。妻は相槌を打ちながら笑顔でそれに応えている。私が母に「冷めるよ」と言うと、妻は「2週間ぶりだもんね、お母さん」と私を抑える。ようやく箸を持つと「これ嫌いや」とおかずの入った皿を横に退ける。それでも妻は笑みを絶やさない。そして、寝るころあいになると妻は、いつもきまって母の肩から腰、足首を揉みにかかる。この時ばかりは母は「ああ気持ちいいよ」と嬉しそうに妻の方に顔を起こす。妻は汗びっしょりになっている。私が妻に「ほどほどにしとけよ」と言うと、

「お母さんの生きてきた思い出かたりを聴くとつくづく教えられるのよ」と言った。妻には心から感謝している。そして、申し訳なく思う。妻は実父母の死に目に会えていないのだ。

弟夫婦に伝えたい。どんな見守りの仕方もあるが、年に1度でもいいから92歳の老いた母の思い出かたりを聴きに行してほしい。

便失禁に 困り果てています

宮城県・Sさん 60歳 女

義姉は進み方が早いのか、どんどん変化していく状況に私の対応が間に合わず、苦しむことの多い日々でしたが、何を頑張ってもかなわないと最近ではやっと諦めの心境になりつつあり、イライラすることも少なくなりました。

しかし、今大変困っていることは、排泄のことは全くわからなくなっているのです。在宅の日は2時間毎にトイレに誘導して対応していますが、時に便失禁があり、パンツに手を入れてしまうので、便のついた手でトイレのレバー、水道の蛇口など触ってしまうことです。

24時間一緒にいるのは無理ですから、こんな時はホトホト困り果てます。

帰れなくなりました

石川県・Oさん 64歳 女

100歳の義母に介護が必要となったために、嫁の私が東京から金沢へ様子を見に来ました。そのまま介護となり、認知症の行動を早くにキャッチしたまでは良かったのですが、東京に帰るに帰れなくなり、金沢におります。

自分も認知症になるかもしれない

千葉県・Uさん 63歳 女

昨年実父を見送り、この数年間に義父母、実母も他界し、親の介護は終わりました。長年、常に親の介護と付き合いながらの日々でしたので、「ぼ～れば～れ」のページをめくると、自分の事と重なり、過去の介護していた頃の記憶がよみがえります。

現在、大変な思いで、介護に明け暮れて

おられる方々のことを思うと胸が痛むばかりです。

「家族の会」を通し、一人でも多くの介護者の方が頑張って乗り越えて下さいますよう祈念しながら「ぼ～れば～れ」を毎月拝読しております。そして、「いつ夫が、いつ自分自身も認知症になるかもしれない」という不安も頭のすみにあります。

ご近所に認知症の兆しの方がおられますので、近隣の方々と声をかけあい、意識してその人の行動に接するようにしています。

ぼ～れば～れ8月号
「悲しそうな顔の父」を読んで

今を大切にしてください

東京都・Wさん 男

Yさんの今の気持ち本当に辛いと思いますし、その気持ち良くわかります。自分も認知症と腎不全の父を母親と今年看取りました。父は腎不全悪化で透析をしないと命の保証はないとの告知を平成24年12月に医師より受けました。医師と母親と何度も話し合いをし、当時80歳と高齢のため、透析という延命処置はしないと自分が最終的判断をしました。

本当に家族にとって苦渋の判断で、自分も今でもこの判断で良かったのかと苦しんでいます。看取りケアも辛く、悲しく、きつい介護となりました。自分も在宅でやってきたからわかります。Yさんが判断が出来なかったことは親を思っていることなので、それでよかったと思うし、間違っていないと思います。本当に辛い判断をしたのだから…。

今を大切に、少しでもお父さんと接する時間を大切にしてお過ごしてもらいたい。毎日毎日を大切にもらいたい。そして、穏やかな時が少しでも長く続くよう祈っています。

ぼ～れば～れ8月号
「進行が早く不安」を読んで

意思疎通に工夫を…

石川県・Hさん 女

母も意味性認知症でした。2000年頃に64歳で発症しSさんの奥様と全く同じ症状でした。

「ぼ～れば～れ」で今年度4月より連載されましたが、当時はこの病気は医療者でも知らない人が多く、先々への不安に押し潰されそうになりながら、どんどん進行する困った症状に対処するのが精一杯でした。

言葉が失われていっても、ご本人の知っている限られた言葉にジェスチャーを加えて工夫すれば意思疎通ができます。また、写真や物を見せて「これのこと？」とか「どれですか？」と聞いて言葉をカバーして下さい。歌や音楽は長く楽しむことができるでしょう。その時々でできることを利用し奥様と歩んで下さい。陰ながらずっと応援しています。

お便りお待ちしております！

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル
京都社会福祉会館内〈「家族の会」編集委員会宛〉
FAX.075-811-8188 Eメール office@alzheim.or.jp



仲間と出会い
話したい

今月の本人 丹野智文さん（40歳・宮城県支部）

9月1日に行なった会報編集委員会に、丹野智文さんが参加していただきました。今月は、その時に丹野さんがお話しされた内容を報告します。

（編集委員 鈴木和代）



「家族の会」との出会い

39歳の時に変化に気づき受診をした丹野さんが診断を受けるまで、そして、診断が下された入院中のこと、「家族の会」との出会いのことを話してくださいました。「若年のつどいは、はじめ年配の方が多く戸惑いましたが、支部の皆さんが優しく声をかけてくれて、喋ってみると同じ病気で、同じ薬を飲んでるってことで、だんだん嬉しくなってきた、今はとても楽しく参加しています」。宮城県支部が、とにかく明るい雰囲気でもらっているというお話が印象的でした。

「会報は毎月ほんとに楽しみで、発送日の20日を過ぎると、もうポストをいつも見ているような感じです。特に『本人登場』は、自分もこういう風に元気でいたいなあって思うひとつの目安になっていて、勇気をもらっています。全国でどういことをやってるかっていうのも見れるから楽しみで

す」と話してくださいました。

思いを書き留めています

全国本人交流会に参加した帰りの新幹線で書き始めたのが最初で、発症した時のことや「家族の会」との出会い、生活の様々な工夫や日頃の思



いをノートに書き留めることを始めました。毎朝の通勤電車の中でノートに書いて、それを帰宅してからパソコンに入力します。「何回も何回も修正しているのが現実なんですよ。でもそれが今は負担でなく、残しとこうかなあ…」という気持ちで書いておられるそうです。

丹野さんのノート紹介！

その「ノート」を会報で随時紹介して下さることになりました。特に、「同じ病気の仲間へのエール」「自分が生活しやすいようにするための工夫」「第三者には分からない苦労」というテーマを中心に、ユニークな工夫や薬の経験などを掲載していきます。

丹野さんの今の気持ちや、暮らしの中から生まれたエピソードは、きっと全国の会員さんに勇気を与えたいと思います。どうぞお楽しみに。



会報編集委員会で思いを語る丹野さん（中央）

情報
コーナー

交流の場

宮城●11月6日(木)・20日(木) 午前10:30～午後3:00／翼のつどい→泉社会福祉センター

埼玉●11月26日(水) 午前11:00～午後1:00／若年のつどい・大宮→地域包括センター諏訪の苑

神奈川●11月16日(日) 午前11:00～午後3:00／若年期認知症本人・家族のつどい→ほっとぽっと

富山●11月1日(土) 午後1:30～3:30／てるてるぼうずの会→サンフォルテ

岐阜●11月23日(日祝) 午前11:00～午後2:00／岐阜市のつどい→アルト介護センター長良

静岡●11月11日(火) 午前10:00～午後1:00／若年性のつどい→富士市フィナンセ

愛知●11月8日(土) 午後1:30～4:00／元気がい→東海市「しあわせ村」

滋賀●11月12日(水) 午前10:00～午後2:00／ピアカウンセリング→成人病センター職員会館

京都●11月16日(日) 午後1:30～3:30／若年のつどい→京都社会福祉会館

奈良●11月5日(水) 午後1:00～3:30／若年のつどい→奈良市ボランティアセン

ター

広島●11月15日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会北部→三次市十日市コミュニティセンター

●11月22日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会西部→廿日市市あいプラザ

長崎●11月11日(火) 午後1:30～3:30／若年性介護者のつどい→ささば市民活動交流プラザ

熊本●11月1日(土) 午後1:00～3:00／若年期認知症のつどい→県認知症コールセンター

大分●11月1日(土) 午後1:30～3:30／若年性認知症のつどい→県社会福祉介護研修センター
詳細は各支部まで